

令和6年度法人本部事業報告書

本報告書は、令和6年度法人本部事業計画書（2024年3月承認）に基づき、同年度に実施した主な取組とその成果、及び今後の課題について、以下のとおり報告する。

（１）発展的経営について

（１）令和6年度介護報酬改定対策

- ・ 2024年2月：本部総務課および各事業所によるプロジェクトチームを組織化
- ・ 〃 3月：介護報酬改定の詳細分析を行い、109項目に及ぶ方向性策定
- 【成果】全事業所で新報酬体系への適応を完了
- 【課題】令和7年度に再チェックとフォローアップを強化予定

（２）医療機関との連携強化

- ・ 2024年 4月：三愛メディカルセンターと協力病院協定を締結
 小野歯科医院と口腔衛生管理指導契約を締結
- ・ 2024年 5月：JCHO湯布院病院と協力病院契約を締結
- ・ 2024年10月：JCHO湯布院病院と嘱託医療機関の契約を締結
- 【成果】緊急時、並びに平常時の医療管理体制が一段と充実した。
- 【課題】嘱託医療機関との連携体制を一段と強化する必要がある。

（３）看取りおよび感染症対策

- ・ 2024年10月：新嘱託病院体制下での看取り並びに感染症対策ガイドラインを策定
- 【成果】重度者増加に伴う入院対応が新嘱託病院でより充実した。
- 【課題】入院期間の長期化を防止し、フレイル予防を図る必要性が増した。

（４）災害対策（BCP）

- ・ 2023年12月策定のBCPを時宜に合わせ2度にわたる改訂（2024年3月31日／2024年6月1日）
- ・ 定期災害訓練を年2回実施
- 【成果】全事業所で定期訓練を実施
- 【課題】BCPのシミュレーションと訓練実施が必須

（５）虐待防止の推進

- ・ 毎月虐待防止委員会開催（2024年4月～2025年3月）
- ・ 全体朝礼で標語の唱和を実施（毎週月曜）
- 【成果】インシデントの共有と反省が徹底
- 【課題】ケアレス事故の撲滅体制を強化

（６）リハビリ、口腔、栄養の取組

- ・ OT/PT/柔道整復士等による機能回復・維持訓練実施（2024年4月～）
- ・ 小野歯科医院指導による口腔ケアを平常時実践
- ・ 管理栄養士等によるミールラウンド開始（2024年4月～）および栄養補助食品の導入
- 【成果】利用者の活動量・体重安定率、栄養状態の改善
- 【課題】創意工夫によるもう一段のレベルアップ

(2) 健全な経営について

(1) 稼働率の達成状況(2024年度目標／実績値)

事業所名	目標	実績（年度平均）	達成率
特別養護老人ホーム情和園	90名	87.9名	97.7%
情和園ショートステイサービス	8名	6.1名	76.1%
情和園デイサービスセンター	36名	24.3名	67.5%
ハニカム青春塾	20名	15.6名	78.0%
情和園デイサービスセンターハッピー	10名	6.9名	69.0%
介護保険サービスセンター情和園	44件	29.9件	67.9%

【成果】空き枠の減少努力が利用者数の増加に直結することが実証された

【課題】通所系及び居宅介護支援事業所の稼働率改善施策（営業努力）を強化

(2) 経営分析とコスト対策

- ・毎月の収支分析と共有を継続実施（2024年4月～2025年3月）
- ・購買活動見直しを常態として経費節減を図った。

【成果】物品・消耗品コストを削減

【課題】物流費増加並びに物価上昇への対応策を継続検討

(3) 事業所内連携の強化

- ・定例連携会議を月1回開催（4月～3月）

【成果】情報共有の促進

【課題】情報共有プラットフォームの導入を検討

(4) 法令遵守・コンプライアンス

- ・職員研修の実施
- ・外部で発生した違反事例の共有

【成果】法令遵守に関する重大な監査指摘事項0件

【課題】基本に立ち返った業務運営

(5) 人材確保・処遇改善等

- 1) 物価高騰対策給付金を支給
- 2) 処遇改善加算の総取得と自己財源を付加した配分
- 3) 研修の充実
 - ・内部研修年間計画に基づく実施、外部研修参加の推奨

【成果】離職率の下降

【課題】外部研修参加率の向上と資格取得の推奨

(6) 接遇マナー・エチケット研修

- ・朝礼時にマナーQ&Aやエチケットの基本学習導入（2024年4月～2025年3月）

【成果】他者に配慮した勤務体制の維持

【課題】言葉づかいやコミュニティー能力の向上

【結び】

令和6年度は、法人全体で計画的かつ継続的な取組を推進し、概ね良好な成果を得ることができた。一方、それぞれの項目について一段のレベルアップを目

指した改善が必要な課題も明らかとなった。令和7年度は、本報告で示した課題を踏まえ、さらなる質向上と効率化、並びに生産性の向上を図り、ご利用者と職員双方にとってよりよい環境づくりに邁進してまいります。

（３）令和6年度事業所別の利用状況について

添付別紙「直近3年間の事業所別延べ利用人員対比表」を参照。全体を俯瞰した評価を併せて記載している。

（４）専門委員会とその活動について

別紙の通り。

直近3年間の事業所別延べ利用人員対比表(令和4～令和6年度)

社会福祉法人愛泉会

事業所名	延べ利用人員 (人)			対前年度比	対前年度比伸び率 (%)	
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増 減 (人)		
特別養護老人ホーム	30,174	30,073	32,079	2,006	特養＋短期	
短 期 入 所	1,526	1,687	2,223	536	8.0%	
通所1課(情和園デイ)	9,227	8,460	7,351	△ 1,109	-13.1%	
サテライト ハニカム青春塾	3,582	4,083	3,734	△ 349	-8.5%	
2課(ハッピー)	1,859	1,752	2,052	300	17.1%	
訪 問 看 護	1,955	91	—	—	—	
居宅介護支援	1,523	1,320	1,436	116	8.8%	
(合 計)	49,846	47,466	48,875	1,409	3.0%	
在宅介護支援センター						
緊急通報(登録者数)	6	4	4	0	0.0%	
お元気コール	63	58	53	△ 5	-8.6%	
(ハニカム青春塾)短縮型自費デイ (再掲)						
地区介護予防教室	(回数)	5	12	36	24	200.0%
	(人数)	39	79	202	123	155.7%
(合 計)	113	153	295	142	192.8%	

「評価と対策」

1. 特別養護老人ホームは、昨年度の反省を踏まえ、退所から次の入所までの空床発生を極力抑えた結果、前年比7%弱の伸びを確保することができた。しかしながら、入所者の更なる高齢化及び重度化により入院を余儀なくされる方が増加するという「入所後の空床発生」があり、その善処に嘱託病院共ども努力しているところである。
短期入所については、31%の劇的な増加を見た。男性のご利用者増加に伴い、ご夫婦でのご利用が増える新しい傾向が見られた。おもてなしが好評を博している。
2. 一般型デイサービスを見ると、利用者数は13.1%の大幅な減少となった。その原因と思われるのは、次の3点であり、現在、挽回のため営業活動に注力している。
①実人員が昨年4月の75人から年度末3月には59人と16名減少した。地域在宅生活者の減少が影響している
②これに伴い、平均利用者数が27.3人→24.3人と3.0人の減少
③コロナ禍やインフルエンザ、台風接近のため、稼働日数が前年比10日減少
3. ハニカム青春塾は、引き続き筋力強化、介護予防に勤しんでいる。前年度比8%強の減少であるが、90才を超える利用者の長期入院による欠席の影響が大きかった。
4. 認知症対応型デイサービスハッピーは、コロナ禍等による稼働日数が前年度比11日の減少にも関わらず、密度の濃いサービスが好評であり営業活動の成果も相俟って、17%の増加を見た。広報紙ハッピー通信を発行するなどして、ご家族との絆を強化する努力も行っている。
5. 居宅介護支援事業所は、由布市社会福祉協議会と併存する貴重な存在であり、その社会的意義は大変大きい。取扱件数は、配置ケアマネジャー数の関係から昨年度に比して約9%・116件の増であったが、1人当たり取扱件数は31.5人→29.9人と減少している。地域の護り手であると共に愛泉会・情和園の受付窓口としてその役割を認識し、まい進したい。